

第3回徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会 会議録

- 1 日 時 令和2年1月24日（金） 14:00～16:00
- 2 場 所 県庁9階 教育委員室
- 3 出席者
【委員】 13名中13名出席
市岡 沙織委員，岩浅 良治委員，岡 富士子委員，勝瀬 典雄委員，
儀宝 修委員，小原 史明委員，多代 かえで委員，寺内 カツコ委員，
西 裕治委員，人見 崇之委員，伏谷 茂委員，森本 泰造委員，
横井川 久己男委員

【事務局】 教育創生課長 ほか7名
- 4 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 議 題
 - (1) 徳島県農工商教育活性化・魅力化方針（案）について
 - (2) その他
 - 3 閉 会

資料1 徳島県農工商教育活性化・魅力化方針（案）

資料2 第2回徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会の主な御意見について

5 会議概要

議題① 徳島県農工商教育活性化・魅力化方針（案）について

事務局

（資料1に基づき、第6章を中心に説明）

委員

具体的にまとめられていて、意見も反映されていると思います。これだけ数値目標も設定された新しい項目があるので、現場で教える先生方にかなり負担がかかるのか、お聞きしたいです。

委員

工業においては、AIなどによる仕事内容の変化が予想される中、高度な資格を取得させたり、機械を使いこなせるような技術者を育てたりするには、学校だけの施設設備や、教科書に載っているような内容だけでは難しいと思います。そのため、地域や企業の方を講師として招いて出前授業などを実施することで、生徒のモチベーションをあげ、我々教員も指導力を高める取組をしています。学校の教員だけでは難しいところをいかに外部人材に助けていただくかが今後の課題であると考えています。

委員

そのときに先生方は外部とのワークの部分では今までと少し違うステージになってくるので、現場では負担がかなり増えるのではないのですか。

委員

我々教員数も限られた人数の中で、生徒を少人数に分けていくとなると、なかなか同時には難しいと思います。そういった授業も必要かと思いますが、やはり外部の方に学校へお越しいただき、出前授業とか、少人数に分かれて行う実習などにそれぞれ入っていただくことで、教員の負担が少なくなり、教員自身も勉強する機会が増えてくると考えています。そのため、独学で勉強したり、外部へ行って研修を受けたりすることは少なくなり、個人の負担は減るのではないかと思います。

委員

農業でいえば、先ほどの地域課題の解決を目指すプロジェクト学習を推進する上で、当然ですが外部と連携しようと思ったら先生方の負担は確実に増えます。学校の中で教えるより難しい折衝もあると思います。神山では文部科学省の事業で先進的にコンソーシアムを立ち上げ、地域の方と一緒に、学校をどのようにしていったらいいのかを話し合いながら取り組んでいます。「神山つなぐ公社」が主体的に考え、協働で地域と学校とが知恵を出しながらというスタイルがあり、その仕組みを作っていれば、実務的な部分は増えますが、生徒自身がその中で力をつけてきたら、うまく回転していく感じになります。この取組を少しずつでも広げていけるような形を指向していかないといけないと思います。農業では、これから少し面倒をかけるけどそれが大事だからやりましょうという感じで取り組んでいます。

委員

外部との連携による新たな活動をするとなると、当然のことながら教員、生徒ともに多くの時間、経費、労力が必要になってこようかと思います。実際、本校では地元産業界や行政機関などと連携した取組を活発に行っており、中心となって活動している教員は出張が年間100日を超え、その

教員の活動をサポートする教員の出張も年間50日前後となるなど、多くの時間、経費、労力が必要となっています。一方、そうした教員の出張中の部活動、授業、校務分掌での事務作業等を他の教員がカバーをするなど、学校全体でサポートすることで外部との連携による活動は成り立っています。学校経営者としては、活動の中心人物だけが脚光を浴びがちですが、みんなで支え合うことにより活動が成り立っており、その成果は学校全体のものという意識を醸成していかないといけないと考えています。

この方針の取組については、例えば48ページですが、商業科では方策1と方策4は今までの取組を踏まえてのものなので、各校ともある程度努力をすることができるような形でまとめられています。方策2については、新しいテーマである先端技術を活用した教育とはどういうものなのか、あるいは、ビッグデータを活用している企業や大学等と連携してどのように高校教育に落とし込んでいくのか、県教育委員会にご指導いただきながら進めていければと思います。方策3においても、SDGsについては各校とも既にエシカル消費などに取り組んでいますが、SDGs全体となると県教育委員会にもご指導いただきながら進めて行かないと現場だけの負担では難しいテーマかなと考えています。

委員 教育の成果は目に見えないところがあり、おそらくどこの教育機関においても試行錯誤を繰り返しながら、様々な新しい取組に時間を割かれているのが実情だと思います。これから特色ある教育が今後行われていくと思いますが、それは教育の現場だけではとても出来ないと思います。

委員 ある市町村における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第2期についての検討委員会で、一番重点的に考えていかないといけない教育の部分をどこが行っていくのかという議論になりました。市町村は県の教育委員会との関連が弱いところで、高等学校の教育内容に関する情報があまり入ってきていませんが、人材育成については、今の高校生に焦点を定めて高校との連携を図っていかないといけないのではないかという意見が出てきました。徳島県教育委員会では、中身が濃い地元との連携を推進されていますが、高校教育全体でこういうことを行っている情報を市町村はご存じなのでしょうか。

事務局 知らないのではないかと思います。

委員 やはりそうですか。教育関係というのは県単位で委員会があり、市町村が絡むのは中学校までですか。高等学校教育は県の所管ですが、市町村は高等学校の生徒に向けた取組をもっとしないといけません。神山などはコンソーシアムをつくり、地元と絡んでいるいい例ですね。先ほどお話しした市町村においても、高等学校との関連性をもって応援をして、行政が進めている産業振興も高校との連携の中に入れていこうかという話がでてきました。

委員 神山校については、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の募集があったときに、学校だけでなく地域の方が一緒にやらせてくださいと手をあげていただきました。町を存続させていくには人づくりが大切であるから、地元の学校とどう取り組んでいくかというこ

とを考えられたと思います。神山校は地元の生徒が少なく、バスで学校へ通い、学校のなかだけで過ごしており、神山のことを全く分かっていないという現状がありました。町としても生徒たちに町のことを分かってもらって、神山校に來ている生徒を、帰ってこなくても地域のことを考える人に育ててもらいたいということで、現在取り組ませてもらっているところです。

委員 応援していただいていますよね。

委員 その応援は大変大きなものです。地元は地元で力を入れてくれていますので、県の方も一緒になって協力をお願いします。私たちの思いとすれば、神山で取り組んでいることを、地域と結びつきながら学校づくり、人づくりをしていくモデルとして、県内のいろいろなところで広げていただきたいと考えています。取組はまだ1年目ですが、以前から「神山創造学」という科目を設けて、地域をフィールドにして学ぶというスタイルで行ってきたことをさらに広げていこうとしています。市町村などとのつながりが大事ですが、県立高校の地域とはどこでしょうか。専門教育における地域とはどこまでなのかと考えております。

委員 基本的には学んでいる生徒が主役になるべきであると思います。どこで住んでいるか、地元はどう残っていただくかということも含めながら、神山に住んでくれたらもっといいと思います。自治体はそこに焦点を定めて予算化していくという指示が内閣府の方から出ています。それぞれの学校には地域性があり、ここまで細かく絞り込んで検討されているので、もっと情報を出していただく形がいいのかなと思います。前回言っていた地元に戻ってくる取組というのは、県も行ってはいますが、本来市町村の予算で行われているので、是非連携がとれたらいいなと感じました。

委員 昨年阿南光高校で勤めていましたが、阿南市の商工観光労政課や市議会議員の方が学校のホームページを見られて、光のまちでPRしている阿南市と協働して何かしませんかとわざわざ来ていただきました。こういう方向で連携していきたいとご提案いただいて、学校としても検討しているところです。各学校は個別で市町村などと話を進めており、それをシステム化するところまでは至っておりません。

神山校の話をされましたが、高校にとっての地域とは何でしょうか。よく小中学校ではコミュニティ・スクールといって、地域の方々のご意見を伺って学校運営に反映するというのがありますが、今後、県教育委員会では高等学校にもコミュニティ・スクールを始めていこうとしています。県内で取り組んでいるところも何校かありますので、それをモデル校として進めていこうと考えております。コミュニティとは、小中であれば校区内の方々だと思いますが、高校では、例えば企業の方や大学の方など、今お世話になっているような方々をコミュニティの委員としてご意見を伺うなかで、大学として何か協力できることがあるか、企業としてできることはあるか、そういうことを話し合うようなコミュニティ・スクールの設置を進めていこうとしています。今回の話と重なるところがありましたので、お話をさせていただきました。

- 委員 地方創生あるいは人材育成ということでは、いろいろなところで様々な関わりがなされており、個々にチームを組むというのは大変難しい面があります。コンソーシアムができていればいいのですが、コンソーシアムをつくるにはつくる前の努力が大変です。国の予算などでも地域創生予算というのがありますが、それをいかに有効に使って人材育成を進めていくかというときに、かなりのエネルギーが地域にないと難しいかと思えます。
- 大学の方でもCOC（センターオブコミュニティ）という事業があります。徳島大学と四国大学が予算を活用していましたが、今年度で終わりということで来年度からコンソーシアムを立ち上げましょうということになり、徳島の大学でコンソーシアムの設置に向けて検討しているところです。そういった中で、これだけの非常に幅広く内容も深い今後の方針が示されておりますので、徳島の農工商教育を活性化していくという意味では、先ほどのご意見のように市町村も一緒になって、可能であればコンソーシアムも立ち上げていかないとなかなか進まないか感じております。
- 委員 先ほど、神山町と神山校が一体となってコンソーシアムという形で連携され、地方創生の流れに乗っていい感じになりつつあるとお話がありました。神山町は行政としても非常に積極的ですし、情報収集力も高く、どんどん目新しいことを行って、神山町と神山校がうまく結びついてやっているという例であるかと思えます。他の市町村はどうなのかというと、そういう巡り合わせがあればうまくいくと思いますが、学校側も行政側もかなり手一杯で運営していると思います。ここはもう一段階上の県の教育委員会であったり、県の地方創生の行政部署が一段上から調整機能を果たして現場へおろしていくということをやればスムーズにいく気がします。
- 委員 やはりバックアップがいりますね。
- 委員 現場の負担だけでは難しいですね。
- 委員 いいと思ってもなかなかアクションを起こせないというところが多々あるかと思えます。せつかく国の方で新たな施策や予算などが2020年からできたのであれば、それを取っていくというのを県の教育委員会や総合政策の部署が上の段階でしっかり連携して、具体的に出せるような動きを起こしていくというのが必要でないのかなという気がいたします。
- 委員 各高校の特色や地域性を生かした具体的な取組がまとめられていて素晴らしいですし、そういった各高校の特徴が分かると中学生の進路選択にもいいと思いました。私は本業が御菓子屋で県産品を使ったものをつくっているということもあってのご提案であります。15ページの第5章の徳島ならではの教育の（1）農林水産業に関する教育、（2）工業に関する教育、（3）商業に関する教育の方策に対応した各高校の具体的な活性化・魅力化策がまとめられているのと同様に、（4）6次産業化に対応した教育に対しても、各高校の連携などによる具体的な施策がまとめられているといいか感じました。
- 事務局 （4）につきましては、本協議会の冒頭で6次産業化プロデュース事業成果報告会の開催についてご案内させていただきました。前回の方針をと

りまとめたときから6次産業化を県の方向性として進めていこうということで、今は県央、県南、県西で学校間連携という形で6次産業化教育を進めてもらっているところです。22ページにありましたように、今回の方針に関しましても6次産業化教育を推進していきたいと書かせていただいておりますので、県教育委員会としてこの方向性を押し進めるということで数値目標を含めて掲載させていただきます。

先ほどから学校への負担という話がありまして、学校の方には負担をかけているのは事実だと思っております。6次産業化プロデュース事業で県央では城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校に連携していただいておりますが、各高校が連携するという事自体でも非常に負担をかけているところではないかと考えております。この新しい6次産業化教育は推進していきたいわけですが、学校への負担も考えながら新しい取組で6次産業化できるような教育を推進していきたいと考えております。時代といいますか、この6次産業化というのは農業、工業、商業、水産どの学科におきましても取り組んでいかなければ新しい時代には対応できないと思いますので、この6次産業化教育は推進させていただきたいと考えております。

委員

もともと経済産業省主導で農商工連携というのをづくり、その後、第1次産業の農業が一番収益があがらないので、それをあげるために何か考えていかないといけないと農林水産部から言われ、6次産業化というのが出てきました。今回の方針のように6次産業化の捉え方を前面に出していただいているのは有難いことです。今まで6次産業化というのは農業分野の視点からのみで述べられていて、あるところでは農業者が生産したものを自分で加工して自分で販売するというのが6次産業化の認定基準でありました。今回のように農業、工業、商業がどういう教育でひとつにつながってくるのかを示していただき、ここまで方針として出されているのはいいことだなと感じております。

委員

6次産業化教育については、いつからこういう形でやっていたのかなと思いました。素晴らしい取組であります。まだ浸透してはいないので続けていけばよいと思いました。工業の先端技術に触れる教育に関して、学校自体が新しい機械を買っていくというのは経費の関係でなかなか出来ないと思いますので、東京である見本市や機械展などを見せてあげると、どれだけ進んでいるのかが分かるのではないかなと思いました。一貫した方針として今回の方針はよく出来ていますので、子どもたちに浸透させていったら、事業を継いでみようかなという子どもなどにインパクトを与えるのではと考えております。

委員

我々は学校の取組をホームページに掲載しておりますが、それが中学生に伝わるツールになっているのか、あるいは方針に掲げる方策が中学生や保護者に対してよいものか、ご意見を伺いたいです。

委員

方針を見させていただいて、このような学校へ進学できる子どもたちは幸せだなと思いました。それとともに、どうすれば子どもたちが各高校について理解してくれるのかなと考えておりました。各高校が2、3分のPR動画をケーブルテレビでずっと流し続けると、小学校のときからその動画を見続けることができ、更新していけば、この高校へ行けばこういうこ

とができるということが伝わっていくのではないかと思います。

残念ですが、子どもたちは自分が行きたいところをクリックして見ることがあっても、万遍なく見ることはなく、入学して初めて知ることがほとんどだと思いますので、何か情報発信するようなものはないかな、勿体無いと思った次第です。

委員 ホームページは結構見ているのですか。

委員 子どもたちは2年生から3年生にかけて高校調べをしていますので、必ず見えています。

委員 中学校に対しての出前授業など各校でも中身が若干違うかもしれませんが、共通になっているような方策も結構あると思います。各校で特色を出さないといけないようなものでなければ、県などで段取りや中身の構築などを行うことで、ある程度型にして行うだけでも進めるときの加速感は違うかなと思いました。

先ほどのCATVで流し続ければという話は面白いと思いました。県の持っているツイッターなどにポイントポイントでこういう取組を今日行いましたとか流しているだけでも、ちょうど進路について悩んでいる時期の子たちならそれをキャッチして見るのではないかと思います。ホームページであったり、CATVであったり、メディアはいろいろあるのでうまく活用するだけで見せ方も変わってくるのではと感じました。

事務局 先ほどから市町村と各学校の連携というお話をいただいておりますが、市町村の方が高校で何をやっているのかを知らないにご指摘いただき、確かにそうだなと思いました。例えば全県から生徒が集まっている高校や、地域密着型の高校など高校ごとに個性があります。また、普通科よりも専門学科の方が地域密着度が高いなど、高校によっていろいろなパターンがあります。統一した方法というのは難しいかと思いますが、それについては改善していきたいと考えております。少なくとも皆様に議論いただいた方針につきましては、市町村の方に伝える努力はさせていただきたいと考えています。それから、ご提案がありました県教育委員会と県の地方創生部局との連携につきましても、課題として考えて参りたいと思っております。

議題② その他